感謝・感動・感激・感銘・感性

F.K.P.通信

2023
3

発行日：2023年3月31日
編集＆発行：ファイブ・ケイ・プロ
Mail：info@fivekpro.net
HP：https://fivekpro.net

“新たな福祉”に挑戦する若手を表彰

社会福祉ヒーローズ トーキョー2022開催

「社会福祉ヒーローズ トーキョー2022」が2月28日に開催された。

これは、社会福祉の現場の第一線で活躍する全国の若手職員を表彰し、福祉業界の“日本一のヒーロー”を決める、いわば“社会福祉版甲子園”ともいえる大会。2018年3月に創設され、今回が5回目の開催となる。今回は、全国各地から過去最多の68人の応募があり、当日は、その中から選出された6人のファイナリスト（受賞者）が、それぞれの仕事に対する思いを熱く語り、日本一を競った。

6人のファイナリストのスピーチは甲乙つけがたい素晴らしいもので、それぞれのスピーチが終わる度に会場には大きな拍手が沸き上がった。

その中で、最優秀賞「ベストヒーロー賞」の栄冠を手にしたのは、兵庫県丹波篠山市の社会福祉法人「福住山ゆりの里」に勤務する、相談員・介護福祉士の稲葉夏輝さん（35歳）。

稲葉さんは、勤務する介護老人福祉施設「やまゆりの里」で、SNSを通じ、施設の日常生活を発信し、介護の仕事の魅力を広げることに挑戦している。要介護者をSNSに投稿するというと一見、批判が上がりそうな気もするが、実際はそのイキイキとした笑顔に癒される。勇気をもらえるということで多くの共感や感動を得ており、その結果、要介護者とその家族、職員、地域にとって良い相乗効果を生んでいるという。

スペシャルゲストには俳優の松本まりかさんが招かれ、ファイナリストのプレゼンをさらに引き立たせた。松本さんの時には自分の経験を交えた心温まるコメントはファイナリストにとっても心強い応援になったに違いない。

「演技するということは他人を演じるということでもあえいます。そのためには、その人のこと（背景などの設定）を理解しないといい演技はできません。これは社会福祉も同じだと感じました」（松本さん）

松本さんも今回のイベントを通じて、あらためて社会福祉に関心を持ったようで、この経験が今後の演技や仕事にどう生かされていくか。松本さんの今後の活躍も楽しみである。

社会福祉は他人事でなく誰にでも関係ある広い領域である。それだけに正解がない世界でもある。そうした中で、希望を持って創意工夫をしている全国各地の“社会福祉ヒーロー”達に無条件に拍手を送りたい。

経済界倶楽部例会報告

経済界倶楽部2月東京例会が2月10日にありました。講師は、マネックス証券株式会社チーフ・ストラテジストの広木隆さん、テーマは「2023年の経済および相場展望」でした。

2022年度は激動の世の中と言われています。ただ、広木さんは激動の年というのは今に始まったことではないといいます。

毎年、激動の年と言荒れ続けてきた。それだけに広木さんの予想はポジティブです。これはアナリスト（分析）ではなく、ストラテジスト（戦略）というポジションからくるもののように感じました。

一番印象的だったのは、世界的にも景気が良くなっていく。これが世界のグローバルリーダーのコンセンサスになっているということです。実際、世界経済フォーラム（ダボス会議）でそのことが共有されたと報じされています。その根拠についても話されていましたが、やはり景況感というのが何よりも大きいなのではないか。この冬のヨーロッパの暖冬によるエネルギー危機回避を見ると、いわゆる“神の手”。景気動向には人知を超えた何かがあるように思えてなりません。気持ちもそのひとつです。

こうした世界情勢の中で、日本経済はどうか。日本は課題先進国だと広木さんは話していました。デジタル化の遅れ、エネルギー対策、インフラの老朽化、少子高齢化など課題を挙げればいくつも出てきます。

それをどう捉えるか。広木さんはそれを成長への“のびしろ”だといっていました。その根拠には信じられないくらいのスピードで進化し続けているテクノロジーがあります。これらを課題解決に生かせれば大きなビジネスチャンスになることは間違いありません。

そして、なによりも日本には、これからの企業成長にとって必須といわれる“パーパス経営”を100年も前から実践してきた歴史があることも強みだといっていました。渋沢栄一先生の「論語と算盤」がそれです。

幸い最近のスタートアップ企業をみるとパーパス在りきで起業する若者がたくさんにいるといいます。

課題先進国であってもそれをチャンスに飛躍できる。日本はまだ捨てたもんではないとあらためて認識した今回の例会でした。

FKP INFO デジタル化はしなやかなプラットホームで サービスサイト構築プラットホーム「tovira」

デジタルマーケティングを支援する株式会社アーチャレスが、企業のサービスサイト構築に欠かせない、会員サイト構築、顧客管理、ユーザー分析をワンストップで提供するクラウドサービス「tovira」をリリースした。

企業Webサイトは、一方的な情報提供ではなく、個別のユーザーニーズにマッチしたコンテンツの提供や、情報取得のアシスト、リード獲得、利用申し込み手続きなど様々な役割が求められている。しかしながら、現在主流のパッケージでは企業の個別なニーズに応えきれず、そのため、無理な実装や複数のパッケージを組み合わせて使われているのが現状だ。そのしわ寄せは、最終的に現場の担当者が日々背負うことになり、結果、企業のDX化を遅らせる原因になっているという。

それを解決するのが「tovira」だ。難しい設定を必要としない設計で、誰でも簡単に須佐出来るように必要な機能だけに絞った、シンプルで使いやすい管理画面を提供。また、より機能を絞った現場向けの管理画面のカスタマイズにも対応している。また、「tovira」にはユーザー分析機能が搭載されているので、会員サイト構築×顧客管理×ユーザー分析をワンストップで実現。会員向けサイト、オンラインイベントサイト、BtoBダウンロードサイトをはじめ、ウエブ接客や予約システム、ランディングページ生成などさまざまなシーンで活用することができる。

編集後記

我が家の八重桜も咲き始め。私の中では“いよいよ”という根拠のない期待感があふれてきています。そんな中でのF.K.P.通信2023.3（3はもはや月ではなく3号目？）。

社会福祉ヒーローズは昨年に引き続きの取材でしたが、今年も感動しました。経済界倶楽部でのスタートアップ企業もそうですが、こういった社会課題に取り組む若者たちが活躍している。本当に頼もしい限りです。そして、こうした取組みをサポートするサービスのひとつが「tovira」。この一連のつながりを意識して読んでいただければ嬉しいです。

加藤佳悟